

# 日本海漁海況速報

## 第1234号

無断転載を禁じます。

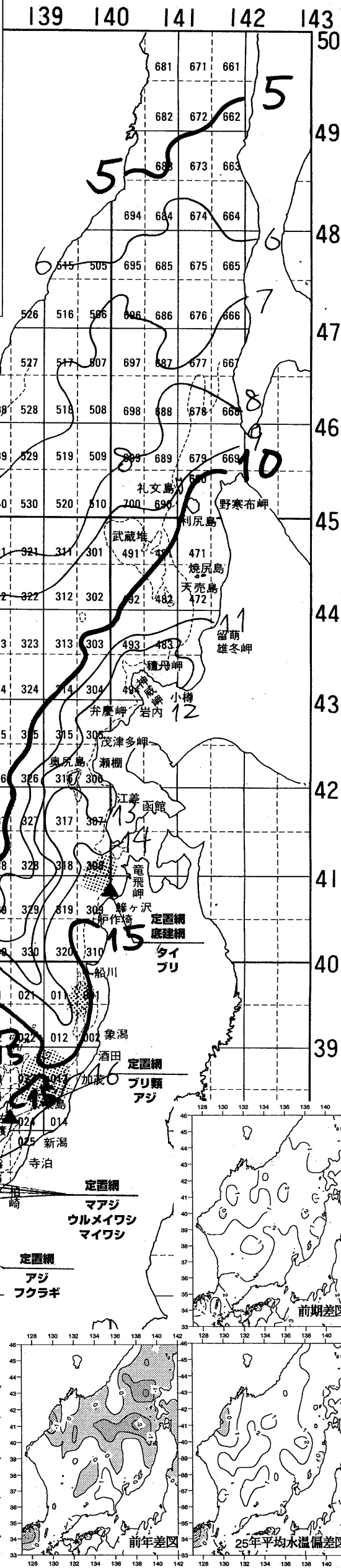
発行所 社団法人 漁業情報サービスセンター

### 今期の特徴

- 海況…①表面水温は、全域で昇温傾向を持続。  
 ②25年平均水温差は、広範囲で1～2℃高め。  
 ③前年差は、北寄りでは低め、南寄りでは高め。  
 ④対馬暖流は、沿岸で接岸気味の分布。  
 ⑤リマン寒流系冷水は、北方に後退し高め。
- 漁況…①沖合スルメは、大和堆北で若干の操業。  
 ②沿岸スルメは、津軽海峡西にも漁場形成。  
 ③山陰まき網は、漁場分散しアジ主体の漁獲。  
 ④各地定置網で、アジ、ブリ類主体の入網。  
 ⑤佐渡両津定置網で、マイワシ若干入網。

### 解説 海況

表面水温は、全域で昇温傾向を持続し、南寄り海域で2℃台、他でも1℃台の高めが広範囲に分布している。  
 ◎25年平均水温との比較では、137°E以東で1℃以内の高め、以西でも一部を除いて1～2℃台の高めが広範囲に分布している。  
 ◎前年水温との比較では、40°N以北では1℃前後の低めが分布し、以南では、北陸と山陰の近海で1℃台の他は、1℃以内の高めを示している。  
 ◎沿岸の対馬暖流は、全般にやや接岸気味の分布に移行し、能登半島以西では、2℃台の昇温となり19～20℃台が分布して、平均水温より1℃台の高め。以北でも、1℃前後昇温して10～17℃台が分布し、平均水温より1℃以内の高めを示している。  
 ◎沖合に張り出す対馬暖流系水は、朝鮮半島東岸では、130～131°E間を幅広く北上し、一部はピョートル大帝湾沖に向かっての模様。隠岐諸島北では、北方と北東方への狭い張り出しとなり、15℃台の先端は前年とほぼ同様に40°Nと39°Nに位置している。いずれも1～2℃の昇温で、平均水温より1℃前後の高めを示している。  
 ◎リマン寒流域では、沿海州～ピョートル大帝湾まで1℃前後昇温して6～7℃台が単調に分布し、広く平均水温より1℃台の高めを示している。  
 ◎リマン寒流系南下冷水は、沿海州南部沖から幅広い張り出しがみられ、41°N付近で分岐して島根半島北西、隠岐諸島北、能登半島北、佐渡島北に向かっている。その15℃台の南端は38°N付近まで北上し、ほぼ前年並みに位置している。いずれも1～2℃昇温して、平均水温より1℃前後の高めを示している。(本田)



スルメイカ漁場

漁区番号は  
スルメイカ漁  
業用漁区番号

20

漁況 (提供:各県水産試験場等)
(文中の“前年”は“前年同期”を示します)

1. スルメイカ釣り (漁獲は1晩1隻当り、生1箱:5~6kg)

1) 沖合
◎鳥取県 (5/20~25; 境港入港操業船情報)
今期は、越前~能登半島~山形県沖に主漁場が形成されている。また、大和堆北でも若干の操業があった模様。
境港では、3日間に延6隻入港、合計350箱 (前期比47%) 水揚げ。1航海1隻最高80箱、平均58箱に増加したが、前年の56%。境港入港船は1航海1晩操業であった。

魚体は20尾:42%、25尾:46%、30尾:9%、40尾:1%、バラ入&テナシイカ:2%で、外套長は13~24cm (前年11~24cm)。

2) 沿岸
◎長崎県 (6/12~19) 対馬東岸では7日間出漁、平均19kgに増加し、前年6月平均の1.4倍。魚体は20~30尾入。壱岐勝本では6日間出漁、水揚げは755kg/日に増加し、前年の3.3倍。
◎鳥根県 (5/19~22) 浜田港では3日間に延95隻入港、平均36kgに減少し、前年の81%。ケンサキイカは平均20kgに増加した。

◎鳥取県 (5/20~25; 境港入港操業船情報)
各地で活発な操業が持続している。西寄りではヤリイカの混獲が多い。

◇鳥取県東部~西部 東部網代では3日間に延67隻入港、合計905箱 (前期比70%) 水揚げ。1晩1隻最高25箱、平均14箱に減少し、前年の86%。魚体は25尾入主体。西部赤碓では6日間に延17隻入港、スルメイカ主体 (94%) に合計216箱 (前期比61%) 水揚げ。1晩1隻最高32箱、平均13箱に急減し、前年の64%。魚体は25・30尾入主体。シロイカ (入合せ) の混じりは6%に増加した。境港では5日間に延50隻入港、スルメイカ主体 (96%) に合計1,043箱 (前期比1.6倍) 水揚げ。1晩1隻最高74箱、平均21箱に減少したが、前年の1.4倍。魚体はやや大型化して20・25尾入主体。シロイカ (2段立、バラ入) の混じりは4%。

◇隠岐諸島周辺 西郷では6日間に延156隻入港、合計2,561箱 (前期比1.1倍) 水揚げ。1晩1隻最高65箱、平均16箱に減少し、前年の92%。魚体は30尾入主体。

◇鳥根半島沖 恵曇では6日間に延35隻入港、スルメイカ主体 (85%) に合計1,020箱 (前期比58%) 水揚げ。1航海1隻最高90箱、平均29箱に減少し、前年の34%。魚体は20・25尾入主体。シロイカ (2.5・3段立) の混じりは変化なく15%。

◇山口県見島周辺 豊北では5日間に延155隻入港、スルメイカ主体 (66%) に合計7,624箱 (1.1倍) 水揚げ。1航海1隻最高110箱、平均49箱で前期並みだが、前年の74%。魚体は20・25尾入主体。ヤリイカ (2.5・3段立) の混じりは34%で前期並み。

◎兵庫県 (5/15~21) 全但沿岸の10t未満船は6日間に延441隻入港、平均108kgに増加し、ほぼ前年並み。

◎京都府 (5/19~25) 経ヶ岬沖では、延50隻出漁、平均10箱に減少し、前年の68%。魚体は20~100尾入 (前年20~50尾入)。

◎山形県 (5/20~26) 県内全港では、5日間に延217隻入港、最高400箱、平均258箱に増加し、前年の1.3倍。漁場は佐渡島沖、向瀬、鎌磯、鳥海礁、粟島。魚体は、20尾:1%、25尾:6%、30尾:36%、40尾:5%、バラ:53%。

◎秋田県 (5/19~25) 船川港では、1日1隻のみ109箱水揚げ。前期並み。魚体はバラ入のみ。

◎青森県 (5/16~20) 深浦定置網にスルメイカが入網した。(本田)

2. イワシ・サバ等まき網 (漁獲は1晩1統当たり)

◎鳥根県 表参照。
◎鳥取県 (5/20~25) 境港の大型船は6日間に延21統の出漁で、対馬沖、浜田沖、若狭湾沖の分散した操業となった。1晩2回以下の操業、アジ類主体で最高160トン、平均33.9トン、合計711トン。全般に船間差が大きい。水揚げは浜田、境港、博多。なお境港には若狭沖で操業した県外船延8統がアジ類合計385トン水揚げした。中小型船は4日間に延43統出漁、隠岐海峡で1晩1~3回の操業、アジ類、カタクチ、ウルメ等主体で最高150トン、平均33.9トン、合計1,458トンと船間差の大きい漁模様。境港に水揚げ。

境港水揚げ分の魚体は、アジ類(1,528トン、70%)14~35cm、カタクチ(518トン、24%)、14~15cm、ウルメ(109トン、5%)19~24cm。他にメダイ14トン。

◎兵庫県は表参照。(斎藤)

3. 沿岸漁況 (定置網等)

◎兵庫県 (5/15~21) 余部定置(5日間)では、ブリ(ツバス)主体(60%)にアジ(18%)他、1日平均0.3トンで前期比38%に減少。前年は6.6トン。

◎京都府 (5/19~25) 若狭湾西部定置(延9統)は、マアジが増加して引き続き主体(62%)で、カタクチ(23%)他平均1.6トン。前期(0.4トン)より増加し、前年比2.4倍。

◎福井県 (5/21~22) 美浜定置(2日間・延13統)では、マアジ(22%)、トビウオ(20%)、フグ類(20%)、ブリ(ブリ、ツバス)(19%)他平均0.2トン入網、1日平均では1.4トンで前年比46%。

◎石川県 ○宇出津定置(5/20~26; 延179統)では、引き続きマアジ主体(74%)にスルメイカ(10%)、マサバ(7%)他平均0.5トン。前期比87%だが、前年並み。○4月下旬の各地の入網は、宝立(延32統)では、マアジ主体(77%)にマイワシ(16%)、ウルメ(5%)他平均0.2トン。前期並み。前年は0.1トン。蛸島(延35統)では、マアジが増加して主体(46%)となり、マイワシ(25%)、ウルメ(25%)他平均1.7トン。前期比1.2倍。前年は0.3トン。輪島(延69統)では、マアジが減少したが引き続き主体(55%)で、マダイ(21%)他平均0.9トン。前期比27%、前年比32%。とき(延32統)では引き続きマアジ主体(41%)にブリ(フクラギ、コゾクラ、ブリ)(34%)、サワラ(11%)他平均0.5トン。前期比77%、前年比63%。

◎富山県 (5/19~25) 富山湾内地先定置(漁船操業含む)では、マアジが増加して引き続き主体(53%)で、ブリ(フクラギ)(20%)、スルメイカ(12%)他、合計243.2トン入網。前期比1.7倍、前年比1.2倍。

◎新潟県 (5/18~23) 佐渡両津定置(延30統)は、ブリ(小、中、イナダ)が増加引き続き主体(56%)、アジ(4%)、スルメイカ(3%)、マグロ(3%)他平均1.7トン入網。前期比3.7倍、前年比3.1倍。

◎秋田県 (5/19~25) 男鹿南部定置(延3統)では、ウマヅラ主体(39%)にマダイ(23%)他平均0.2トン入網。前年は1.5トン。
◎青森県 (5/21~25) 深浦定置では、は、ブリが増加して7.3トンの他、タイ3.9トン、サワラ0.3トン入網。(高口)

4. ブリ情報 (漁獲は期間中の合計)

◎兵庫県 (5/15~21) 余部定置(5日間)では、ツバス1.0トン入網。前期比26%。前年は17.3トン。

◎福井県 (5/21~22) 美浜定置(2日間・延13統)では、ブリ0.3トン、ツバス0.2トンの他、計0.5トン。前年は1.7トン。

◎石川県 ○宇出津定置(5/20~26; 延179統)では、ブリ0.4トン、フクラギ・コゾクラ0.3トン、計0.7トンで前期比15%。

○5月上旬の各地の入網は、蛸島(延35統)では、ブリ0.1トン。輪島(延69統)では、ブリ3.5トン、ガンド0.9トン、フクラギ・コゾクラ0.1トン、計4.5トンで前年並み。とき(延32統)ではフクラギ・コゾクラ3.2トン、ブリ1.8トン、ガンド0.1トン、計5.1トン。前期は0.3トン。前年並み。

◎新潟県 (5/18~23) 佐渡両津定置(延30統)は、ブリ小17.9トン、中(平均魚体5.0kg)9.0トン、イナダ1.5トン、大(平均魚体8.2kg)0.1トン、計28.5トンで、前期(0.9トン)から急増し、前年比2.7倍。

◎秋田県 (5/19~25) 男鹿南部定置(延3統)では、ワラサ、アオ、ブリ計0.1トン入網。

◎青森県 (5/21~25) 各地の定置網は、沢辺ブリ0.3トン、深浦ブリ7.3トン、大戸瀬ブリ1.0トン入網。小泊では刺網でワラサ0.3トンの漁獲。(高口)

5. ケンサキイカ・ヤリイカ情報 (漁獲は期間中合計)

◎長崎県 (5/13~19; ケンサキイカ) ○釣り 対馬東岸(7日

間)では12.8トン(2~2.5段)で、前期比1.5倍、前年比1.2倍。1隻平均では27kgで前期比1.2倍、前年比90%。壱岐勝本(6日間)では25.8トン(2~3.5段)で前期比1.6倍、前年比1.4倍。1日平均では4.3トンで、前期比1.6倍、前年比1.2倍。○定置網 五島有川(7日間)では0.2トン(3~4段)。前期比75%、前年比50%。五島魚目(7日間)では0.1(3段)入網。前期比57%。前年は若干。北松生月(7日間)では、0.2トン(2~4段)入網、前期比64%、前年比60%。

◎鳥根県 (5/19~22) 浜田のケンサキイカ釣り(延95隻)は、計1.9トン漁獲。1隻平均20kgに増加し、前年(13kg)を上回った。

◎福井県 (5/21~22) 美浜定置(2日間; 延13統)では、ケンサキ0.1トン、コウイカ類、アオリイカ若干の入網。

◎石川県 ○5月上旬の各地のヤリイカは、蛸島(延35統)0.1トン、輪島(延69統)0.3トン、とき(延32統)0.2トン入網。

◎富山県 (5/19~25) 富山湾内地先定置(漁船操業含む)では、ホタルイカ14.2トンで前期比52%。前年(114.5トン)を下回った。

◎青森県 (5/21~25) 各地でのヤリイカの漁獲は、下前定置網0.1トン、小泊定置網0.4トンの入網。(高口)

スルメイカ釣り漁況

Table with columns: 県名, 港名, 船型, 延日数, 漁獲量(トン), 最高, 平均, 前期比較, 前年平均, 漁場(海区), 期間, 水揚げ日数, 魚体, 備考

日本海沿岸漁況情報

Main table with columns: 漁業種類, 県名, 漁港, 漁場, 期間, 日数, 延統数, and various fish types (マイワシ, カタクチ, etc.)

Table for まき網 (Maki Net) with columns: 漁業種類, 県名, 漁港, 漁場, 期間, 日数, 延統数, and fish types

【お知らせ】

当センターでは、「より早く」「より正確な」情報提供を目指すため、「日本海漁海況速報」の発行を、本号をもちまして廃刊とさせていただきます。昭和52年4月より長い間ご愛顧ありがとうございました。平成16年6月からは「日本周辺漁海況情報」として、太平洋・日本海・東シナ海の3海域の情報をB4サイズ4枚にとりまとめてファクスによる提供(金曜日発行)を開始致します。詳細等につきましては、後日案内書(見本同封)をご送付致しますので、ご参照賜りますようお願い申し上げます。ご利用戴いている各位におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

\*速報値 ※漁船操業を含む